

指導者として…

狭山市新舞踊連盟 藤寿紫峰

私と さねとう先生との出会いは第1回市民芸術祭でした。そこで私が担当したのは、笹井小学校・柏原小学校の子ども達の指導でした。それぞれ狭山の民話を足踊り風に表現、入間川合戦を騎馬戦で表現という舞台でした。さねとう先生のイメージに少しでも近づける為に子ども達も必死で練習をしておりましたが、リハーサル最後の最後まで、さねとう先生からダメ出しを受け、本番直前まで先生の厳しいお言葉で、緊張しっぱなしだった事は今でもしっかりと覚えております。

今の子ども達は「騎馬戦」という言葉も、勿論馬の作り方も知りませんでした。先生は「そうなんだね！馬の作り方も知らないんだね!!」と呆れると言うか、ビックリしておいででした。そこからが大変です、馬の作り方を一からの指導「4人が一騎になって動くのよ!」と子ども達に説明をして、いかに騎馬戦らしく子ども達を移動させようとしても思い通りには行きませんでした。そんなことが続くと子ども達に向けた叱責が全て私にきます。

舞台に対する情熱と作品に対しては決して妥協をされないプロ意識、そして舞台終了後は「まあまあまあ…良かったんじゃない?」と仰ってくださる癒しのお言葉。子ども達への指導の大変さと楽しさを実感！それは今も続いております…今の私が有るのはそこから始まったのです、先生のお蔭で。

また芸術祭本舞台までの間、何回か先生をお迎えに伺ったその車中で、芸術祭に対しての熱い思いを語られていらっしゃいました、一番深く今でも残ったお言葉は「少しでもねえ、昔の事が今の子ども達に伝わればねえ!」…

また、先生には狭山ふるさと音頭・稲荷山さくら音頭の作詞をしていただき、そのお蔭で、振り付を担当することができ、今では多くの方が踊ってくださり…沢山の思い出を残して頂きました。今でも残る、先生が使われた車に乗るための踏み台…

先生、お疲れ様でした。どうぞ今後の私たちを見守ってください。

さねとう先生と共に…

狭山市民美術協会 角川照江

さねとう先生には第10回の芸術祭、影絵人形劇「入間馬車鉄物語」でご縁ができました。その舞台で使われる影絵の人形の制作依頼が市民美術協会にあったのです。

会員の中では、誰も経験のない作業でした。先生の関わっている影絵人形劇団「みんわ座」の公演を、先生と一緒に都内に見に行きました。劇団の方からアドバイスを受れたり、舞台裏での操作の様子も見学しました。

都内の紙問屋や草加に出かけて材料の厚紙を手配し、何十年ぶりの猛暑続きの7～8月に15～



さねとう先生(左端)と一緒に



6回集まって、作業をしました。厚紙のカットに四苦八苦しりましたが、人形を動かす工夫の得意な人や、絵付けの得意な人、それぞれの力を出し切り、高齢者集団がなんとか熱中症にもならず完成にこぎつけました。

先生も途中何回かいらして、ご自分でも作業をされ「いいね! いいね!!」と、たぬきの人形や馬車を動かしながら、子どものような笑顔をされていたのも懐かしい思い出です。

先生も天国で芸術祭を楽しく思い出されていることでしょう。

合掌